

南畑の屋号・地名

地域の歴史を復元してみよう

= 南畑橋周辺編 =

旧南畑橋周辺

「橋場」といい、「南畑銀座」とも呼ばれた。橋周辺が船着場。橋周辺には、船宿、飲み屋、酒屋、たばこ屋、呉服屋、米屋、雑貨屋など当時としては珍しくたくさんの店舗が軒を連ねていた。後には村役場、駐在所、農協、医院、火の見櫓などの公的機関が集まり、郵便局もできた。金蔵院は南畑小学校の前身「徳明学校」だった。

- 「い」かめだな(亀店)たばこ屋、飲み屋
- 「ろ」ながせやほんけ(長瀬屋本家)
- ※上南畑で屋号が「永津」という家で働いていましたが、もともと血縁関係はありませんでした。この「永津」さんから出たときに、「ながつ屋」と名乗っていました。呼びづらいたのことから「長瀬屋」というようになりましました。
- 「は」さがみや・たびや(相模屋・足袋屋)
- 「に」ながせや(長瀬屋)

- 支店 雑貨店：現そば屋
- 「ほ」じてんしやや(自転車屋)よしわら
- 「へ」くるまだいく(車大工)くるまでーく
- ：現豊屋
- 「と」とうふや(豆腐屋)豆腐製造：現自動車整備業
- 「ち」いしぎき(酒屋)
- 「り」ぶんたびや(足袋)呉服・洋服店
- 「ぬ」うおとし・さかなや(魚歳・魚屋)魚店・魚料理
- 「る」うちで・とうでーく(内手・藤大工)棟大工 宮大工
- 「を」おおざかや(大坂屋)米屋・精米業
- 「わ」となりのうち・はしばのうち(隣・橋場)人力車屋
- 「か」かわぶくろ(川袋)元・谷合医院)川袋は川の蛇行を意味する。
- 「よ」おてら(お寺)金蔵院

- 「た」ねずばし(鼠橋)農家：現谷合園芸
- 「れ」さくじさん(作次さん)洋服屋
- 「そ」いちがね(市金)だんご屋
- 「つ」とこや(床屋)
- 「ね」おしんめい(御神明)魚屋・料理店
- 「な」たゆうさん・かんぬしさん(太夫・神主)宮司
- 「ら」はたや(機屋)織り屋
- 「む」どぜうや(ドジョウ屋)川魚料理屋
- ※お店を始めたのは今から100年以上前になります。昔は荒川でドジョウがたくさんとれたそう。近所の人がとったドジョウを荒川から舟を使って上野まで卸しに行ったそうです。お店には若い男衆を13人も雇っていた。とても賑やかだったそうです。今の

- 「た」ねずばし(鼠橋)農家：現谷合園芸
- 「れ」さくじさん(作次さん)洋服屋
- 「そ」いちがね(市金)だんご屋
- 「つ」とこや(床屋)
- 「ね」おしんめい(御神明)魚屋・料理店
- 「な」たゆうさん・かんぬしさん(太夫・神主)宮司
- 「ら」はたや(機屋)織り屋
- 「む」どぜうや(ドジョウ屋)川魚料理屋
- ※お店を始めたのは今から100年以上前になります。昔は荒川でドジョウがたくさんとれたそう。近所の人がとったドジョウを荒川から舟を使って上野まで卸しに行ったそうです。お店には若い男衆を13人も雇っていた。とても賑やかだったそうです。今の

取材協力
・ 渋谷一夫氏

取材をするにあたり、多くの皆様からご協力を頂き、ありがとうございます。紙面の都合上、掲載を一部とさせていただきます。

「え」あみだめ・あみだめん(阿弥陀前)材木屋

※以前から「阿弥陀」と呼ばれていましたので、後に阿弥陀如来を祀ったとのことですが、由来はわかりません。

(注)「※」印のコメントは、現在、その場所に住んでいる方からお聞きしたものです。

市内にあった河岸場
伊佐島、蛇木、鶴馬本、鶴、山下、前の6河岸。屋号は「舟問屋」「新聞屋」。

船頭さんの屋号
一六、五十、永津(何艘も泊められる長い船着場の意、洗濯屋(舟持船頭)、押田三兄弟(船頭))



橋場(南畑銀座)の地図 ~大正初期の地図から復元~



「屋号」とは一家の特徴をもとに家につけられる呼称をいい、南畑にも多くの屋号が伝えられてきました。郷土史料にも取り上げられてきましたが、それぞれの屋号の由来などと、周辺の昔の様子を重ね合わせてみると、往時の地域の姿が浮かび上がってきます。

今回は、本誌に「ふるさと」の今昔シリーズを連載していただいている渋谷一夫先生(市文化財審議委員)のご研究から、大正初期の舟運盛んなころの南畑橋周辺の賑わいを復元した様子を紹介します。

(担当)武田秀規、三塚好江、吉原松江、野本巴智子、表紀子、砂川弘子、行川哲哉

屋号とその意味など

上記の地図は、南畑銀座と呼ばれた大正時代のころを復元したものです。

江戸時代、橋場と呼ばれた旧南畑橋付近は船着場になっており、船頭さんをはじめ、さまざまな商家が密集していました。

現在の新河岸川は河川改修により位置も大きく変わっていますが、図示された「い」から「え」まで、橋場周辺で舟運に開わりの深そうな「屋号」を列記していくと、そこからかつての南畑の様子をうかがい知ることができます。